

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第2回運営委員会次第

- 1 日時 平成30年9月18日(火)14時00分～
- 2 場所 産業技術総合研究所 つくば西事業所 本館2階 会議室
- 3 出席者 林(会長)、甘利(副会長)、清水(〃)、佐波、長瀬、安部(永井委員の代理)、中島、緒方、岡部(池田委員の代理)、NCDR委員(TV会議にて出席予定)、遠藤
陪席者 平岡(セコム)、本下(産業技術総合研究所)、阿部(防災科学技術研究所)、中島(〃)、前山(〃)、岡島(筑波大学)、石濱(〃)
その他 飯野(スリーエム ジャパン)、古谷(筑波大学)、大塚(〃)、佐藤(〃)、松原(〃)
(敬称略)

4 議事

第2回運営委員会出席者名簿について(資料1)

【審議】

- (1) スリーエム ジャパン株式会社の入会申込について(資料2～4)
- (2) シンポジウム準備状況について(案)(資料5)
- (3) 共同研究について(案)(資料6)
- (4) 第3・4回運営委員会について(案)(資料7)
- (5) その他

【報告】

- (1) 第3回幹事会(H30.8.30)について(資料8)
- (2) 客員教員人事について
- (3) ウェブサイトについて
- (4) その他

15時00分～16時30分 産業技術総合研究所 つくば西事業所 見学会

(配付資料)

資料1	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第2回運営委員会出席者名簿		P.1～
資料2	スリーエム ジャパン株式会社 入会申込書		P.3～
資料3	スリーエム ジャパン株式会社 事業概要		P.5～
資料4	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 規約		P.9～
資料5	シンポジウム準備状況について(案)		P.15～
資料6	林会長意見交換議事メモ		P.19～
資料7	第3・4回運営委員会について(案)		P.21～
資料8	レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第3回幹事会議事メモ(案)		P.23～

Resilience Research and Education Promotion Consortium

2nd Steering Committee resume

1. Date/Time Tuesday, September 18, 2018, 14:00~
2. Venue Meeting room, Main Building 2nd floor, AIST Tsukuba West
3. Attendees Hayashi(President), Amari(Vice-president), Shimizu("), Sanami, Nagase, Abe(understudy of Nagai), Nakajima, Ogata, Okabe(understudy of Ikeda), committee of NCDR(will join by television conference), Endo
Attended by Hiraoka(SECOM), Motoshita(AIST), Abe(NIED), Nakajima("), Maeyama("), Okajima(University of Tsukuba), Ishihama(")
Others Iino(3M Japan), Furuya(University of Tsukuba), Otsuka("), Sato("), Matsubara(")
(without honorific)

4. Agenda

The list of attendees of 2nd Steering Committee (Handout 1)

【Deliberations】

- (1) About the membership application of 3M Japan Limited (Handout 2~4)
- (2) About the readiness of symposium(plan) (Handout 5)
- (3) About the collaborative research(plan) (Handout 6)
- (4) About the 3rd and 4th Steering Committee(plan) (Handout 7)
- (5) Others

【Reports】

- (1) About the 3rd Board of Governors(2018.8.30) (Handout 8)
- (2) About the personnel of visiting teachers
- (3) About our website
- (4) Others

15:00~16:30 The Special Tour of AIST Tsukuba West

(About handouts)

Handout 1	The list of attendees of the 2 nd Steering Committee of Resilience Research and Education Promotion Consortium	P.1~
Handout 2	The membership application of 3M Japan Limited	P.3~
Handout 3	The business summary of 3M Japan Limited	P.5~
Handout 4	Rules of the Resilience Research and Education Promotion Consortium	P.9~
Handout 5	The readiness of symposium(plan)	P.15~
Handout 6	The proceedings of exchange of opinions of President Hayashi	P.19~
Handout 7	About the 3 rd and 4 th Steering Committee(plan)	P.21~
Handout 8	The proceedings of the 3 rd Board of Governors of Resilience Research and Education Promotion Consortium(plan)	P.23~

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム第2回運営委員会出席者名簿

(敬称略、網掛けは欠席)

出欠	機関	委員	委員代理	陪席者
出席	セコム	IS研究所 リスクマネジメント グループ グループリーダー 甘利 康文		I S 研究所 企画グループ 主務研究員 平岡 良彦
出席	大日本印刷	研究開発センター 課長 佐波 晶		
欠席	日本電気	セキュリティ研究所 主任研究員 柳生 智彦		
出席	DRIジャパン	理事長 長瀬 貴隆		
欠席	電力中央研究所	企画グループ 研究管理担当 スタッフ 上席 星川 英		
出席	日本自動車研究所	代表理事 研究所長 永井 正夫	安全研究部 主任研究員 安部 原也	
出席	海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所	航空交通管理領域 領域長 中島 徳顕		
出席	産業技術総合研究所	安全科学研究部門 研究部門長 緒方 雄二		エネルギー・環境領域 研究戦略部 研究企画室 企画主幹 本下 晶晴
出席	防災科学技術研究所	理事長 林 春男		企画部 部長 阿部 浩一 企画部 次長 中島 壮一 企画部社会連携課 係員 前山 明輝
出席	労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所	災害調査分析センター センター長 池田 博康	機械システム安全研究グループ 主任研究員 岡部 康平	
出席	NCDR (台湾)	未定 (TV会議にて出席予定)		
出席		教育担当副学長 清水 諭		システム情報系 教授 岡島 敬一
出席	筑波大学	学位プログラムリーダー (システム情報系 教授 リスク工学専攻長) 遠藤 靖典		システム情報エリア支援室 支援室長 石濱 悟

関係出席者

スリーエム ジャパン株式会社 国土強靱化プロジェクト本部 統轄技術部長 飯野 誠司

筑波大学 システム情報エリア支援室 主幹 古谷 明久、大塚 秀男、佐藤 真実

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム プロジェクトマネージャー・事務担当者

松原 悠

Mail: matsubara@risk.tsukuba.ac.jp Tel: 029-853-4975 Fax: 029-853-6307

〒305-8573 茨城県つくば市天王台1-1-1 筑波大学システム情報エリア支援室

別記第1（第5条関係）

○入会申込書書式

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム
入 会 申 込 書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業
に賛同しますので、入会を申し込みます。

平成30年8月6日

所在地 東京都品川区比叡川 6-7-29

機関名 スリーエム ジャパン 株式会社

代表者（自署又は公印）



広範な産業分野で、身近な暮らしの中で、サイエンスを活かした
5万5,000にのぼる製品を、5つの事業部門を通じてお客様に提案しています。

自動車の開発

業務用ソリューション

コンシューマー

建設・建築

エレクトロニクス

電力・電気・エネルギー

ヘルスケア

製造関連

セーフティ

交通関連

自動車の開発

業務用ソリューション

コンシューマー

建設・建築

エレクトロニクス

電力・電気・エネルギー

ヘルスケア

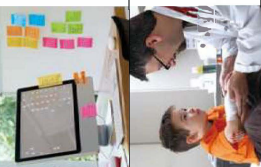
製造関連

セーフティ

交通関連

強みのある10分野

5つの事業部門

				
インダストリアル				
作業現場を支えるテープや研磨材、不織布技術から生まれたフィルター材、自動車の車室空間を自由に演出するLED光源専用の車体光ファイバーなどを通して、産業分野の発展に貢献しています。				
エレクトロニクス & エネルギー				
日々の暮らしに密着した電子・電気機器でも3Mの製品は活躍しています。電力ケーブルやコネクタなど、社会を支えるインフラ構築にも数多く採用されています。				
セーフティ & グラフィックス				
広告、自動車、建築物などを美しく彩るグラフィック製品や内装仕上げ材、交通安全を支える反射シートや安全衛生製品など、人々の暮らしを幅広く支えています。				
コンシューマー				
新しい便利さと豊かなコミュニケーションを支える文具・オフィス用品をはじめ、清潔で快適な生活を支える家庭用品を提供しています。				
ヘルスケア				
3Mのヘルスケア関連製品は、医療をはじめ看護、介護、歯科などのメディカル分野や食品衛生の現場で高い評価を獲得しており、健康な社会づくりに貢献しています。				
事業部門を横断した取り組み				
国土強靱化プロジェクト本部				
"国土強靱化"をテーマに、事業部門の垣根を越えた取り組みをリードする組織を設置し、社会インフラの維持管理に資与するさまざまなソリューションを提案しています。				
eコマースとデジタルマーケティングの推進				
すべてのビジネスにおいてeコマースをお客様とのタッチポイントの選択肢の1つに取り入れていくことをリードする組織を設置。あらゆる"e"を活用して販売チャネルを多様化し、イノベーション、販売活動を加速させています。				

インダストリアル

時代のニーズを先取りした多様な製品がさまざまな産業分野で活用されています。

テープ・接着剤



**3M™ VHB™ アクリルフォーム
構造用接着テープ**
ビスボルト留めに代わる強い接着力を備えながら、簡単な作業で美しい仕上がりを実現できるテープです。家電・精密機器の部材の接合や住宅の壁材・床材・水回りなどの固定に使われています。



研磨材



3M™ キュービットロン™ II 研磨材
精密成型セラミックス砥粒を使用した研磨製品群です。高い研削力と長寿命で生産性を改善します。金属製品・一般機械の普通鋼削・アルミの溶接ビード除去や自動車部品のバリ取り、溶接ビードの研磨ができます。



フッ素化学製品



**3M™ ダイオロン™
フッ素ゴムコンパウンド**
耐摩耗性や圧縮の強さに優れたフッ素ゴムコンパウンドです。熱に強く成型性も高いことから、自動車エンジン周りのシール部品をはじめ、建築用機械などに広く用いられています。



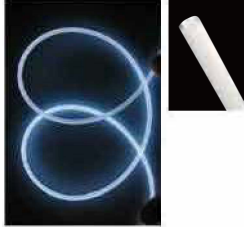
フィルター材



**Betapure™ ポリプロピレン
不織布デブスフィルター
カートリッジ SKYL/SKYB
シリーズ (0.5µm ~ 10µm)**
自社開発の微細繊維により、従来製品より細かく空隙率の高い過層の形成を実現。高い粒子除去性能と高流量を両立させたフィルターです。半導体などのCMPスラリー製造工程における分級ろ過や、飲料、食品原料における清澄ろ過に最適です。



自動車内外装関連



3M™ ライトストリング
柔軟性・耐熱性・光の均一性に優れたアクリル樹脂製車窓光ファイバーです。特殊な透明アクリル樹脂が、LEDの点光源を長く均一な線状発光にします。自動車の天井の間接照明やダッシュボード部の裝飾イルミネーションなど、車室空間を自由に演出します。



オートアフター関連



3M™ マスキングテープ
車両塗装用のマスキングテープです。はがしたときに残残りしない特性や、基材の柔軟性、重ね貼り性能など、現場のさまざまなニーズを反映した製品です。



エレクトロニクス&エネルギー

技術革新の波を捉え、新しい時代を支える製品を提供しています。

電力関連

電力・電子ソリューション事業部



3M™ 常温収縮チューブ製品



電線の接続部やケーブルコネクタの絶縁保護・防水用途に使われます。作業時にコアを引き抜くだけでチューブが収縮するため、作業効率の向上に貢献します。



電力・電子ソリューション事業部

スコッチ® 電気絶縁用ビニルテープ製品



電気配線工事の電気絶縁からケーブルの識別までさまざまな用途で使われる電気絶縁用ビニルテープです。柔軟性が高く、よく伸びて凹凸面へもしっかり密着し、きれいな仕上がりを得られます。

電気・電子製品

電力・電子ソリューション事業部



3M™ ミニ・クランプコネクタ



半導体製造装置や自動検査装置など、各種製造装置内のセンサー線や制御線を特殊な工具なしで接続することができ、工数を削減します。

フッ素化学製品

電子用製品事業部



3M™ Novec™ 高機能性液体

さまざまな工業用途に使われる不燃性のフッ素系液体です。表面張力が低く洗浄性が高いことから、電子機器の除塵洗浄や水きり乾燥に使われるほか、電気絶縁性や熱安定性にも優れ、超低温域での化学合成反応、半導体製造機器の潤滑媒体として使われています。

建設・建築関連

コンストラクションマーケット事業部



3M™ ダイノック™ フィルム



木目、単色、抽象柄など設計者・デザイナーを刺激する上質で豊富なデザインを誇る建築内装仕上げ材です。耐久性・施工性に優れ、本機認定も取得しています。オフィスや店舗、ホテルなどをより美しく仕上げます。

グラフィック製品

コマージャナルグラフィックス事業部



3M™ スコッチカル™ グラフィックフィルム



広告をカラフルに彩るグラフィック製品です。看板・ディスプレイからバス・鉄道車両・航空機に至るまで、幅広い対象に貼ることができます。

セーフティ・セキュリティ関連

トランスポートーションセーフティ事業部



3M™ ダイマモンドグレード™ DG³ 反射シート



夜でも、遠くから明るく光って見える道路標識を実現するための反射シートです。耐候性に優れ、文字が見やすい状態を長期維持します。

業務用クリーニング製品

コマージャルケア事業部



3M™ ウエット ディスパーザブル モップ



飲食店などの床清掃が素早く衛生的に行える、使い捨てタイプの水拭き用フラットモップです。水や洗剤が出る専用モップキットと併用することで、従来の糸モップを使った床拭きの清掃時間をおよそ半分に短縮します。

工作機械関連

電子用製品事業部



3M™ 3D プリンター プラットフォームシート 3099AB

特殊な表面加工で樹脂をしっかりと固定し、造形物をきれいに外せる世界初の3Dプリンター向けの専用シートです。造形が難しかったABS樹脂の造形の精度が大幅に向上します。

安全衛生製品

安全衛生製品事業部



3M™ VFlex™ 防じんマスク

厚生労働省が定めた国家検定区分に合格している、低価格を使い捨て防じんマスクです。空気中の有害微粒子を98%以上[※]ブロックします。
※平均検漏値

安全衛生製品事業部



3M™ 取替式防じんマスク 6500シリーズ

ヘルメットを装着したままワンタッチで顔から着脱できる防じんと防毒機能を備えた呼吸用保護具です。レバーの操作だけで、正しく簡単にマスクの再装着が可能です。

コンシューマー

暮らしに密着した製品群が便利で快適な毎日を支えています。

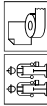
文具・オフィス用品

文具・オフィス事業部

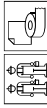


ポスト・イット®。強粘着ふせん

従来のポスト・イット®。通常粘着製品に比べて、約2倍の粘着力を持つ製品です。パソコンのモニター周りなど、つきにくい場所にもしっかりと貼れて、きれいいにはがすことができます。



文具・オフィス事業部



スコッチ®。メンディングテープ

貼っても目立たない、高品質なテープです。変質・変色しにくく、テープの上から字を書くことができます。2014年度ロングライフデザイン賞を受賞しました。



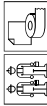
文具・オフィス用品

文具・オフィス事業部



エーワン®ラベルシール

宛名用から表示用まで幅広く使えるラベルシールです。パソコンとプリンタで簡単に作成でき、豊富な品揃えでオフィスからパーソナルまで多様なニーズに対応します。



家庭用品

コンシューマー製品事業部



スコッチ・ブライト®
抗菌ウレタンスポンジ

鍋・グリルのこげつき汚れもスッカリ落とします。シンプルなデザインはスポンジたわしの定番です。2012年度ロングライフデザイン賞を受賞しました。

家庭用品

コンシューマー製品事業部



コマンド®フック
水まわりにも使えるタイプ

水がかかったり温度の高いシンクや浴室でもしっかりと貼れる耐水タイプの粘着タブを使用したフックです。不要になったらタブを伸ばしてきれいにはがすことができます。



コンシューマー製品事業部



スコッチ®。超強力両面テープ
フレミアゴールド
[スーパー多用型]

軟質塩ビからプラスチックまであらゆる素材の接着に対応します。産業分野で培った3Mの高い接着・接合技術を活用した両面テープです。



ヘルスケア

医療から食品関連まで幅広くカバーし、健康と安全への要請に応えています。

医療用製品

皮膚創傷ケア製品事業部



感染管理製品事業部



ニードルレスコネクタ用
保護キャップ

医療現場で点滴や輸液療法時のチューブ接続部の汚染を防ぐキャップです。「2016年度グッドデザイン賞」を受賞。



3M™ リットマン™ 聴診器

患者様の心音をしっかりと聴くことができ、医師から看護師まで多くの医療従事者が日常的に使用する聴診器のスタンダード品です。1996年に発売され、2012年ロングライフデザイン賞を受賞しました。

歯科用製品

歯科用製品事業部



矯正歯科用製品

歯科用製品事業部



スコッチボンド™ 歯科用接着材

歯のエナメル質、象牙質から金属やジルコニアまで、1本で7つの症例に使える歯科用接着材です。

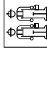


歯科矯正用ブラケットシステム

矯正歯科医と患者様の快適性を求めて開発された、セラミック素材のブラケットです。目立ちにくい半透明色で同様の少ないデザインは、お口の中の違和感を軽減します。

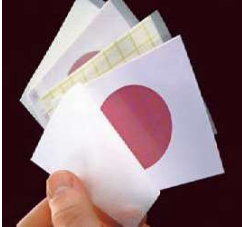
食品・衛生関連製品

フードセーフティ製品部



ドラッグデリバリーシステム

ドラッグデリバリーシステムプロジェクト部



3M™ ペトリフィルム™ 培地

食品中に存在する細菌の数を測定する乾式フィルム状のできあがり培地です。シャーレを使った従来の培養法と比べ検査時間を短縮し、食の安全管理に貢献します。



経肺吸収製剤

喘息用のエアゾール製剤です。3M独自の製剤技術により薬物の肺到達率を高めます。世界初の定量噴霧製剤の開発などで50年の歴史を持ち、経肺吸収技術分野をリードしています。

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム規約

（レジリエンス研究教育推進コンソーシアム総会
平成29年12月26日制定
平成30年 7月19日改正）

第1章 総則

（名称）

第1条 本コンソーシアムの名称は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアム（以下「コンソーシアム」という。）と称し、英語名を **Resilience Research and Education Promotion Consortium**（「R²EC」と略す。）とする。

（目的）

第2条 このコンソーシアムは、大学、研究機関、産業及び行政の連携・交流の促進を図るとともに、研究教育とその実用化を支援し、筑波大学とつくば市及び近郊地区の研究機関、企業等の連携により筑波大学に開設する協働大学院方式のリスク・レジリエンス工学学位プログラムを企画運営し、リスク・レジリエンス分野における日本ひいては世界の知と研究教育の核となる活動を支援することを目的とする。

（事業）

第3条 コンソーシアムは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- （1）総会を開催し、リスク・レジリエンスに係る活動の連絡調整を行う。
- （2）筑波大学に開設する協働大学院方式による学位プログラムへの参画団体、担当教員及び企画に関し調整を行う。
- （3）セミナー、講演会、研究会等を実施する。
- （4）コンソーシアムに関わる国内外の関連機関等との連携を推進し、必要に応じてシンポジウム等を開催又は共催する。
- （5）その他前条の目的を達成するための事業を適宜実施する。

第2章 会員

（会員）

第4条 第2条の目的及び前条のすべての事業を行うことに賛同する大学、研究機関、企業、団体等（以下「研究機関等」という。）を会員とし、会員を別表第1により明記するものとする。

（入会・退会）

第5条 第2条に規定する目的及び第3条に規定する事業を行うことに賛同しコンソーシアムに入会を希望する研究機関等は、別記第1により入会申込書をコンソーシアムあてに提出した後、総会の議決により入会することができる。なお、退会の際は、その旨を会長あてに申し出るものとする。

（除名）

第6条 会員が次のいずれかに該当するに至ったときは、総会の議決により除名することができる。

- （1）本規約又は関連する定めに反したとき。
- （2）本コンソーシアムの名誉を傷つけ、又は目的に反する行為をする等、会員としてふさわしくない行為をしたと認められるとき。
- （3）その他、除名すべき正当な事由が認められるとき。

- 2 前項の規定により、会員を除名しようとするときは、当該会員に予め通知するとともに、除名の議決を行う総会において、会員に弁明の機会を与えなければならない。

第3章 役員

(役員)

第7条 コンソーシアムに次の役員を置く。

- (1) 会長
- (2) 副会長 2名
- 2 会長は、会員の中から互選により選出する。
- 3 副会長は、会員の中から互選により選出する。
- 4 会長に事故があるときは、副会長のいずれかがその職務を代行する。
- 5 役員の任期は、原則2年とし、再任は妨げない。

第4章 組織

(総会)

第8条 コンソーシアムの最高機関として、総会を置く。

- 2 総会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、総会の議長となる。
- 4 総会は、会員の代表者をもって構成する。
- 5 総会は、次の事項を審議し、決定する。
 - (1) 規約の改廃
 - (2) 会長及び副会長の選任
 - (3) 会員の参画又は退会、除名に関すること。
 - (4) 第3条に規定する事業の調整及び運営に関すること。
 - (5) その他、コンソーシアムの運営に関し必要なこと。
- 6 前項に掲げる事項の審議については、第9条に規定する運営委員会に付託することができるものとする。

(運営委員会)

第9条 第8条第6項の規定に基づき、総会の下に運営委員会を置く。

- 2 運営委員会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、運営委員会の議長となる。
- 4 運営委員会は、会員の代表者をもって構成する。
- 5 運営委員会は、第8条第6項の規定に基づき、総会の付託を受けて、第8条第5項に掲げる事項について審議を行う。
- 6 前項に掲げる事項の第8条第5項(4)及び(5)に係る審議のうち、運営委員会が定める事項については、第10条に規定する幹事会に付託することができるものとする。

(幹事会)

第10条 第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の下に幹事会を置く。

- 2 幹事会は、会長がこれを招集する。
- 3 会長は、幹事会の議長となる。
- 4 幹事会は、次の委員で構成する。
 - (1) 会長
 - (2) 副会長 2名
 - (3) 会員の中から互選により選出する委員 若干名

(4) リスク・レジリエンス工学学位プログラムリーダー

(5) その他、会長が指名する者 若干名

- 5 幹事会は、第9条第6項の規定に基づき、運営委員会の付託を受けて、第8条第5項(4)及び(5)に掲げる事項について審議を行う。

(代理出席)

第11条 第8条第4項に定める総会の構成員、第9条第4項に定める運営委員会の構成員及び第10条第4項に定める幹事会の構成員は、それぞれの規定にかかわらず、やむを得ない事由により総会、運営委員会又は幹事会に出席できない場合には、代理人を出席させることができる。

- 2 前項の規定により、代理人が総会、運営委員会又は幹事会に出席する場合は、代理人の行為を総会、運営委員会又は幹事会の構成員の行為とみなす。

(議決)

第12条 総会、運営委員会及び幹事会は、過半数の構成員が出席しなければ議事を開き、議決することができない。

- 2 総会、運営委員会及び幹事会の議事は、出席した構成員の過半数をもって決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(委員以外の出席)

第13条 総会、運営委員会及び幹事会は、必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、説明又は意見を聴くことができる。

(リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与)

第14条 コンソーシアムは、筑波大学に開設する、協働大学院方式によるリスク・レジリエンス工学学位プログラムの運営母体となる。

- 2 リスク・レジリエンス工学学位プログラムへの関与は、筑波大学が定める規則等に基づき行う。

(事務)

第15条 コンソーシアムに関する事務を処理するため、事務局を置く。

- 2 事務局は、筑波大学の関連部署の協力を得るものとする。

第5章 雑則

(報酬)

第16条 会長、副会長、幹事及びその他コンソーシアムの運営管理に関与する者は、無給とする。

(解散)

第17条 コンソーシアムの解散は、総会において出席者の過半数の同意をもって決するものとする。

(その他)

第18条 本規約に定めるものの他、コンソーシアムの管理運営等に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規約は、平成29年12月26日から施行する。

附 則

この規約は、平成30年7月19日から施行する。

別表第1（第4条関係）

○会員

区 分	機 関 等 名 称
企業	セコム株式会社 大日本印刷株式会社 日本電気株式会社
団体	一般財団法人 DRI ジャパン
研究機関	一般財団法人 電力中央研究所 一般財団法人 日本自動車研究所 国立研究開発法人 海上・港湾・航空技術研究所 電子航法研究所 国立研究開発法人 産業技術総合研究所 国立研究開発法人 防災科学技術研究所 独立行政法人 労働者健康安全機構 労働安全衛生総合研究所 National Science and Technology Center for Disaster Reduction
大学	国立大学法人 筑波大学

○入会申込書書式

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 入 会 申 込 書

レジリエンス研究教育推進コンソーシアム 殿

当機関は、レジリエンス研究教育推進コンソーシアムの設置目的及び実施する事業
に賛同しますので、入会を申し込みます。

平成 年 月 日

所在地 _____

機関名 _____

代表者（自署又は公印） _____

シンポジウム準備状況について（案）

2018年9月13日17:25現在

1. 共催・後援および広告について

A. 共催

筑波大学

B. 後援（以下リストの他、各参画機関から積極的に後援依頼をしていただく）

	学会等名	紹介者（敬称略）	後援等 依頼状況	広告情報（候補）
1	地域安全学会	糸井川（筑波大学）	後援○	メーリングリスト、Webで無料広報可
2	日本災害情報学会	糸井川（筑波大学）	×（返信なし）	なし
3	日本自然災害学会	糸井川（筑波大学）	後援○	MLで無料広報可
4	日本災害復興学会	糸井川（筑波大学）	依頼済（9/21までに回答）	なし
5	情報処理学会	遠藤（筑波大学）	×（返信なし）	冊子：『情報処理』10月10日申込締切、10月20日原稿締切、11月15日発行 前付25万円（4色） メールニュース広告：毎週水曜原稿締切 ヘッダ5行 5万円
6	電子情報通信学会	西出（筑波大学）	後援○	冊子：『電子情報通信学会誌』9月25日申込締切、10月1日原稿締切、11月1日発行 前付1頁 31万円（カラー）
7	日本知能情報ファジィ学会	遠藤（筑波大学）	後援○	メーリングリスト・Web・学会誌イベント表で無料広報可
8	日本建築学会	糸井川（筑波大学）	×（サイト告知なら可）	メール広告：ヘッダ5行 2～5万円（配信日・毎月10日と25日）
9	エネルギー・資源学会	岡島（筑波大学）	後援○	Web、ML広報OK 会告1頁3万円（9月末原稿提出、11月10日発刊）
10	日本エネルギー学会	岡島（筑波大学）	後援○	会誌、Web掲載OK 冊子：『日本エネルギー学会誌』前付1色1頁 9万円余 10月15日申込締切、10月31日原稿締切、11月20日発刊
11	日本都市計画学会	糸井川（筑波大学）	後援○	なし
12	土木学会	糸井川（筑波大学）	後援○	冊子：9月末原稿締切、10月末発行 1頁17万円（モノ） 情報交流サイト投稿可 http://jsce.jp/pro/
13	キッズデザイン協議会	甘利（セコム）	依頼済（検討中）	
14	日本ネットワークセキュリティ協会	甘利（セコム）	後援○	
15	警察政策学会	甘利（セコム）	後援○	
16	日本市民安全学会	甘利（セコム）	後援○（会長内諾済）	
17	日本情報経営学会	甘利（セコム）	後援○	

※広告は新聞社にも依頼予定（電波タイムズ、日刊工業新聞、警備保障タイムズ、電波新聞、文教ニュース、文教速報）

シンポジウム準備状況について（案）（続き）

- A2 ポスター、および A4 ポスター兼フライヤー（デザインは同じ）

デザイン見本は別紙のとおり。

送付先案は次のとおり。

各参画機関 （A2・10 枚、A4・40 枚）

リスク工学専攻とお付き合いのある約 200 の大学等（A2 と A4 を 1 枚ずつ、以下同様）

後援団体

茨城県市町村

東京都区

文部科学省

国土交通省

警察庁

消防庁

- パネルディスカッション

今後筑波大学で検討し、幹事会・運営委員会に提案。

- ブース

会場後方に総合ブースを設置予定。パンフレット、ポスター、展示品などをご検討いただきたい。

林会長意見交換議事メモ

日時：2018年8月22日（水）14:45-15:00

場所：防災科学技術研究所 つくば本所

出席：林（会長）、阿部、中島、前山（防災科学技術研究所）、遠藤、石濱、松原（筑波大学）
（敬称略）

議事

● コンソーシアム共同研究プロジェクトについて

林会長より、以下のとおりコンソーシアム共同研究プロジェクトを進めることの提案があり、了承された。

- ・ 現在、IRDR（Integrated Research on Disaster Risk：国連機関 UNISDR による防災・減災の研究プログラム）の日本学術会議に設置された日本委員会である IRDR Japan において、共同研究を立ち上げて科研費新学術領域及び日本学術会議大型研究に応募する計画がある。この計画は、National Platform としてのオンライン防災統合システムの設置を目指すものであるが、システムの対象を事件・事故やサイバーリスクにも拡張することにより、コンソーシアムの参画機関にも関与していただくのはどうか。
- ・ この計画には現在、防災科学技術研究所をはじめ、東京大学、京都大学、東北大学、名古屋大学、九州大学の各防災関係研究所のほか、東京大学生産技術研究所、土木研究所 水災害・リスクマネジメント国際センター(ICHARM)が参画している。

以上

第3・4回運営委員会について（案）

- 第3回運営委員会について（案）

日時：平成30年11月27日(火)13:30-
(13:30-14:30：運営委員会、14:30-：見学会（予定）)

場所：大日本印刷株式会社 五反田ビル
(東京都品川区西五反田3-5-20、JR五反田駅／都営浅草線五反田駅より徒歩6分)

議事：シンポジウムに関する確認・調整、インターンシップ協定について、非常勤講師の推薦について など

- 第4回運営委員会について（案）

日時：平成30年12月14日(金)12:00-13:30（弁当あり）
※11:00-12:00には第5回幹事会を開催
※14:00-16:50にはシンポジウムを、17:30-19:00には情報交換会を開催

場所：嘉ノ雅 茗溪館2階「茗溪」
(東京都文京区大塚1-5-23、丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩1分)

議事：シンポジウムに関する最終確認 など

※第5回運営委員会は平成31年1月には開催せず、2～3月に開催する

- 1 日時：平成30年8月30日(木)10時00分～10時45分
- 2 場所：筑波大学 総合研究棟 B1202
- 3 出席者：林（会長）、甘利（副会長）、遠藤
陪席者：阿部、中島、前山（防災科学技術研究所）、平岡（セコム）、石濱、松原（筑波大学）（敬称略）
- 4 議事
 - (1) スリーエム ジャパン株式会社の入会申込について（資料1, 2）

遠藤委員より、資料1および2に基づき、スリーエム ジャパン株式会社から入会申込があった旨の説明があり、第2回運営委員会に諮ることとなった。また、スリーエム ジャパン株式会社には、第2回運営委員会において入会が承認された後に委員として出席いただくこととなった。
 - (2) シンポジウム後援等依頼について（資料3, 4）

筑波大学の共催について
遠藤委員より、資料3および4に基づき、シンポジウムへの後援を依頼する機関とその依頼状（案）について説明があり、承認された。なお、後援については、コンソーシアム参画機関からも積極的に依頼していただくこととする提案があり、併せて承認された。また、予算的な観点や今後の学位プログラムへの展開を踏まえ筑波大学と共催にする提案があり、併せて承認された。
 - (3) 共同研究について（資料5）

遠藤委員より、資料5に基づき、林会長からコンソーシアムの活動として共同研究プロジェクトの提案があったことについて説明があり、承認された。なお、本件は第2回運営委員会に諮ることとなった。
 - (4) 客員教員人事について
遠藤委員より、各機関から推薦された客員教員の人事的手続きは進行中である旨の説明があった。
 - (5) シンポジウム当日の会議開催について（案）（資料6）

遠藤委員より、資料6に基づき、シンポジウム当日に幹事会と運営委員会を開催する提案があり、承認された。なお、本件は第2回運営委員会に諮ることとなった。
 - (6) 次々回運営委員会の開催機関について
遠藤委員より、次々回（11月）運営委員会の開催予定機関である大日本印刷と早急に日程調整を行う旨の説明があった。
 - (7) 外部向けウェブサイトについて
松原PMより、外部向けウェブサイトについては、8月中にサンプルサイト完成、9月上旬にサンプルサイトを参画機関に確認照会、9月中旬に公開予定となっている旨の説

明があった。

(8) その他

- 遠藤委員より、台湾 NCDCR には日本語がわかる委員を選出いただき、今後も日本語による文書・会議を継続したい旨の提案があり、先方に照会することとなった。
- 遠藤委員より、台湾 NCDCR にはポリコムや Skype、Zoom を利用して運営委員会に出席いただきたい旨の提案があり、先方に照会することとなった。
- 遠藤委員より、本学が幹事会委員であるセコムに TV 会議システムの機材（ポリコム）を貸し出し、幹事会を遠隔開催してはどうかとの提案があり、Web 会議を含めセコムから接続可能な方法をお知らせいただくこととなった。

(配付資料)

資料 1	スリーエム ジャパン株式会社 事業概要	P.1～
資料 2	スリーエム ジャパン株式会社 入会申込書	P.5～
資料 3	シンポジウム後援等依頼候補学会等一覧	P.7～
資料 4	コンソーシアムシンポジウム後援依頼状（案）	P.9～
資料 5	林会長意見交換議事メモ	P.13～
資料 6	シンポジウム当日の会議開催について（案）	P.15～